2019年度

九州共立大学

地域連携推進センター 報告書

令和 2 年6月

地域連携推進センター

令和元年度 九州共立大学　地域連携推進センター報告書発刊に寄せて

地域連携推進センター
所長　　山　田　　明

関係者各位の皆様方には、日頃より本学地域連携推進センターの活動に御理解と御協力を賜り、深く感謝を申し上げます。

昨今、人生100年時代の到来とSociety5.0（狩猟・農耕・工業・情報社会に続く第5の人間中心社会）、国連によるSDGs（持続可能な社会づくり）の提唱など、未来へ向けての社会の在り方が模索されています。その中にあって大学には、地域課題の解決を目指す拠点として、ひとづくり・地域づくり・つながりづくりを支援することが求められています。

これら社会の要請を受け、地域連携推進センターでは、地域連携部門、研究推進部門、生涯学習・資格取得支援部門の3部門を構築し対応しています。具体的な施策として、包括連携協定を締結している自治体、団体、企業等との連携により地域課題解決のための多様なボランティア活動や研究活動に教員・学生を派遣し、地域社会の生涯学習を充実させる魅力ある公開講座も実施しています。特に地域連携部門におきましては、産・官・学の連携による社会貢献を通して、地域に開かれた大学としての使命を果たすべく取り組んでいるところです。

令和元年度には、地域社会を学びのフィールドにする経済学部地域創造学科、スポーツ学部スポーツ政策コースを新設しました。この2つの学科・コースを核に全学をあげて、地域課題に取り組む体制をより一層強化していきたいと考えています。本学は、地域と共に歩む大学の実現と学生の人材育成に重点を置き、学是である「自律処行（自らの良心に従い、事に処し善を行う）」の具現化を目指しています。この基本方針に沿って地域連携推進センターでは、社会のニーズに基づく先進的な地域連携システムを構築し、「地域の皆様と共に」をモットーにオープンな存在としてのその機能を提供して参ります。関係者各位の皆様方のご協力をお願い申し上げます。

地域連携推進センターについて

○目的

平成６年に設置した「生涯学習研究センター」は、地域における生涯学習社会の実現を図ることを目的とし、大学を地域社会に開放する際の触媒的な機能として、ここを拠点とした社会人や地域住民並びに学生に対する多様な学習の提供と、生涯学習に関する研究の推進を展開してきたところであるが、近年、「地方創生」が声高に叫ばれるなか、大学にあっては「地域連携・地域貢献」の拠点（中核）となることがこれまで以上に強く求められており、大学全体で組織化された地域との連携協働体制の構築が喫緊の課題となっている。

このことから、本学においては上述の「生涯学習研究センター」の機能を核とし、産業界等との研究協力及び学術交流の推進を目的として設置した「総合研究所」、ならびに大学が行う地域連携活動に係る学内情報の一元管理と対外的な窓口業務や連絡調整を行う「地域連携推進室」の三つの組織を統合した「地域連携推進センター」を設置し、大学の知識・人財を活用した「地域連携・貢献」「研究推進」「生涯学習」の各事業を一体的に行うことにより、地域の活性化及び人財育成の一翼を担うことで「地域に開かれた大学」の定着を目的とする。

○業務内容

(1)３部門が行う事業への助言・管理・運営補助

①地域連携部門

・協定締結機関及び協力機関との事業プランに関する調整及び学内機関とのマッチング
・地域連携事業プランに関する進捗状況の把握・管理
・個別の学生ボランティアに関する公募・指導・管理・派遣
・出前講義への教員派遣等の高大接続に関する事項
・その他、地域連携に関する事項

②生涯学習・資格取得支援部門

・公開講座・シンポジウム・有料講座等の企画立案
・学部教育と連携した国家資格、教員及び公務員採用試験対策に関する補助講座の企画、運営、実施
・その他、生涯学習・資格取得支援に関する事項

③研究推進部門

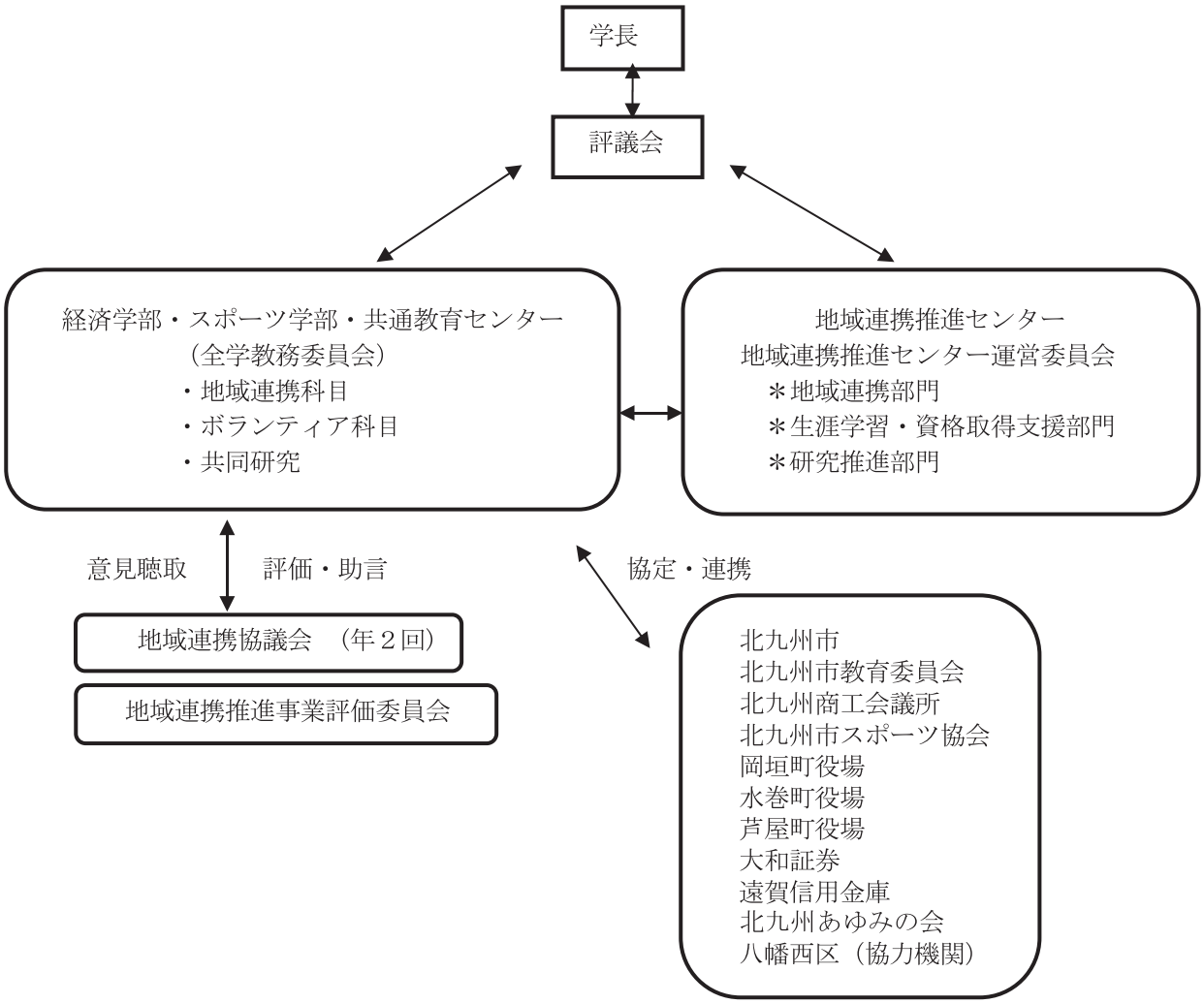
・自治体、企業、他大学等との地域連携に関する共同研究の受入窓口及び学内教員とのマッチング
・研究発表会等の企画立案・運営
・研究紀要の発行
・その他、地域連携に関する学内の研究推進に関する事項

(2)「地域連携推進センター運営委員会」「地域連携協議会」「地域連携推進事業評価委員会」の運営・管理
(3)協定締結の審議及び締結事務
(4)「地域貢献・連携事業」報告書（年報を含む）・紀要の発行
(5)その他、地域連携推進センターの運営に関する事項

○地域連携推進センター運営委員会

委員長　：地域連携推進センター所長
副委員長：地域連携推進センター副所長　２名
委　員　：各学部から学長が推薦した教員　各１名
　　共通教育センターから学長が推薦した教員　１名
　　その他、学長が推薦した教員
　　キャリア支援課長
　　教務課長
事務局　：地域連携推進センター職員
※所長・副所長の３名は、それぞれ３部門の部門長となる。

○組織図


学長
評議会
経済学部・スポーツ学部・共通教育センター
（全学教務委員会）
・地域連携科目
・ボランティア科目
・共同研究
地域連携推進センター
地域連携推進センター運営委員会
＊地域連携部門
＊生涯学習・資格取得支援部門
＊研究推進部門
意見聴取
評価・助言
協定・連携
地域連携協議会　（年２回）
地域連携推進事業評価委員会
北九州市
北九州市教育委員会
北九州商工会議所
北九州市スポーツ協会
岡垣町役場
水巻町役場
芦屋町役場
大和証券
遠賀信用金庫
北九州あゆみの会
八幡西区（協力機関）

以上

目　　次

≪地域連携事業プラン≫

【岡垣町】
・岡垣プロジェクト 2019「岡垣学Ⅲ」 … 1
・地域活性化新聞（岡垣歴史新聞）第４号 … 2
・学生のサービス・ラーニング（社会貢献学習）を活用した人権教育サポート … 3
・第１６回岡垣ウォーキング大会・マラソン大会
　スポット講座「歩き方・走り方レッスン」 … 5
・障がい者クリスマス交流会 … 6

【水巻町】
・九州共立大学×水巻町 … 8

【芦屋町】
・芦屋町健康講演会 … 10
・小学校２年生教科「生活科」における学習支援
　―カブトムシの飼育を通じて― … 11
・あしやハンズ・オン・キッズ　スポーツ大会 … 13
・あしやハンズ・オン・キッズ　スポーツ（社会教育実習生受入事業） … 14

【北九州市教育委員会】
・部活動補助・スクールヘルパー … 15

【北九州市スポーツ協会】
・公益財団法人 日本体育施設協会認定
　「体育施設管理士養成講習会・資格認定試験」 … 15

【芦屋町役場】
・学力向上推進事業 … 15

【遠賀信用金庫】
・「拝命 社長秘書」の報告会 … 15

【八幡西区】
・脳活性化教室修了者への介護予防支援 … 16
・ちくてつ（筑豊電鉄）沿線魅力発掘事業 … 17

・スイムフェスタ 2019 … 18

目　次

≪人材育成・共同研究事業≫

・北九州ゆめみらいワーク　2019 … 19
・九州共立大学×ギラヴァンツ北九州　シニア健康教室 … 20
・健康運動指導士養成講習会 … 22
・健康運動実践指導者養成講習会 … 23
・中国・四国・九州地区　生涯教育実践研究交流会 … 24
・福岡県立社会教育総合センター主催「ゆずフェスティバル」学生ボランティア … 26
・ESD 推進　いきいきシニア塾 … 27
・香月・千代ジュニアスポーツ体験教室 … 30
・知的障がい・発達障がい児を対象とした「ニコニコ体操教室」 … 32
・北九州市立年長者研修大学校　穴生学舎研修　地域ふれあいコース … 35

≪生涯学習・資格取得支援≫

・資格取得支援プログラム講座別受講者数集計表（延べ数） … 36
・公開講座実施報告 … 36
・北九州市立年長者研修大学校穴生学舎シニアサマーカレッジ … 39

・2019 年度　地域連携推進センターの業務成果 … 40

〔SDGs〕×〔九州共立大学〕

SDGs（Sustainable Development Goals）とは、2015年9月の国連サミットで、採択された2030年までの世界の開発目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール169のターゲットから構成され、「地球上の誰一人として取り残さない」ことをスローガンに、開発途上国のみならず、先進国も取り組むこととされています。

九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		2019年度
事業名		岡垣プロジェクト2019　『岡垣学Ⅲ』
九州共立大学	担　当　者	山田　明
	所　　属	スポーツ学部
連携機関	機　関　名	《機 関 名》岡垣町役場
	責　任　者	《職・氏名》企画調整室・生涯学習課
事業実施日・回数		4月～12月　　《全10回》
実施場所		岡垣町役場・九州共立大学
事業対象者 参加人数		九州共立大学　学生：スポーツ学部　　12名
経　　費		あ　　り（特別研究費より支出）
事業目的・内容等及び 実績及び効果		1．事業目的・内容等 　歴史と自然と人権の町、岡垣町。この岡垣町の魅力を再発見し、住みたい町、住み続けたい町への貢献として学生が若い世代の目線で魅力を掘り起こす取り組みが岡垣学である。今年度は岡垣町の地名考証について、岡垣町史の編纂にも携わった石井邦一氏の『岡垣のむら里を訪ねて』を基に整理編集した。 2．実績 （1）書籍『岡垣のむら里を訪ねて』をテキストとした学習会の実施 （2）岡垣町のフィールドワーク、編集委員会の開催 （3）記事作成、編集、校正 3．効果 （1）学生：社会を生き抜く市民性（シティズンシップ）の涵養 （2）地域社会：地域活性化及びまちづくり 本冊子は、岡垣町主催のボランテア交流会（2020年3月）で学生が岡垣町の住民に解説する活動も実施した。 （3）大学：知（地）の拠点としての社会貢献の実施。
学生の声		（1）地域社会の地名を考証することで、その地域の歴史を知ることができるという体験をしたことが、自分の故郷の歴史を考える機会にもなった。 （2）地域の地名の由来が地理的な理由にあることが多いということわかり、昔の人々の生活は、地理的要因に影響されていたと再確認した。
今後の改善内容 及び展開		岡垣学は、今年度（岡垣学Ⅲ）で終了である。岡垣学Ⅰでは歴史・伝統・習俗、岡垣学Ⅱでは郷土料理と水を取り扱った。岡垣学Ⅲでは各コミュニティの地名考証に取り組み、地域の魅力を学生目線で掘り起こした。

九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		2019 年度
事業名		地域活性化新聞（岡垣歴史新聞）第4号
九州共立大学	担　当　者	山田　明
	所　　属	スポーツ学部
連携機関	機　関　名	《機 関 名》岡垣町役場
	責　任　者	《職・氏名》企画調整室・生涯学習課
事業実施日・回数		4月～１２月　　《全10回》
実施場所		岡垣町地域交流センター、九州共立大学
事業対象者 参加人数		九州共立大学　学生：　スポーツ学部9名　　留学生１名　　計10名
経　　費		あ　　り（特別研究費より支出）
事業目的・内容等及び実績及び効果		1．事業目的・内容等 学生が岡垣町の地域活性化を目的に歴史新聞を作成する。新聞を町内外に配布することで岡垣町の歴史遺産を広く広報し、町内にあっては地域の魅力再発見、町外にあっては訪れてみたい町として認識してもらうことを目的とする。 2．実績 （1）事前準備 ①大学での授業（「社会教育と生涯学習」等社会教育関係）と活動の関連性を明確にする。②文献やインターネットを活用し町の情報を収集する。③行政や町民との打ち合わせをする。④岡垣町でのフィールドワークを実施する。 （2）新聞作成 編集会議、記事の作成、編集・レイアウト、校正等を通して歴史新聞を完成させる。成果物（800部）は岡垣町に寄贈し町内外に配布してもらう。 3．効果 （1）学生：社会を生き抜くための市民性（シティズンシップ）の涵養 （2）岡垣町：地域活性化、まちづくりの進展 （3）大学：「知（地）の拠点」としての社会貢献
学生の声		（1）フィールドワークを通して、（山城の）歴史を実感した。 （2）自分の目で確かめることで、歴史の内容がより理解できることが分かった。
今後の改善内容及び展開		今年度で岡垣歴史新聞は第4号となる。本号ではNHKの大河ドラマ放送予定の「明智光秀と戦国時代」に合わせ、岡垣町の戦国時代を取り上げた。第5号に向け、さらに学生目線の取材で地域の魅力を発信する。

九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		2019 年度
事業名		学生のサービス・ラーニング（社会貢献学習）を活用した人権教育サポート
九州共立大学	担　当　者	山田　明
	所　　属	スポーツ学部
連携機関	機　関　名	《機 関 名》岡垣町役場
	責　任　者	《職・氏名》企画調整室・教育委員会
事業実施日・回数		10月 16日《1回》
実施場所		岡垣町役場・九州共立大学・岡垣町立吉木小学校
事業対象者 参加人数		九州共立大学　学生：スポーツ学部12名
経　　費		あ　　り（特別研究費より支出）
事業目的・内容等及び 実績及び効果		1．事業目的・内容等 2017年度に実施した岡垣町の小中学生対象の人権意識調査及び分析書作成、2018年度の人権意識の改善に資する学習指導案及び資料の提供を踏まえ、2019年度は岡垣町立吉木小学校で体育の授業を活用した人権教育を実施した。 2．実績 （1）事前学習 人権に関する諸課題について、大学教員による講義・演習を受講した。 （2）人権意識調査及び分析書の作成（2017）の確認 （3）学習指導案作成及び資料（2018）の確認 （4）授業の準備（模擬授業の実施を含む） 3．効果 （1）学生にとっては人権教育教材の作成を通じて、身近に人権課題を を認識し、自分の課題として取り組み、課題発見能力・課題解決能力に 向上が見られた。 （2）地域社会にとっては青少年の人権意識向上にサポートが得られた。 （3）大学にとっては知（地）の拠点として社会貢献を果たした。
学生の声		（１）人権は、人間が生きていくうえで最も根本的な条件であると感じた。 （2）日常生活において、人権が問題となる状況を意識するようになった。
今後の改善内容 及び展開		岡垣町における青少年の人権教育の向上を目的としたプロジェクトも、人権意識調査及び分析書（2017）、学習指導案及び資料（2018）を経て2019年度で終了となる。提供した報告書・授業案を有効活用してもらいたい。

吉木小学

九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		2019年度
事業名		第16回岡垣ウォーキング大会・マラソン大会 スポット講座「歩き方・走り方レッスン」
九州共立大学	担　当　者	西山　侑汰　名頭薗　亮太
	所　　属	スポーツ学部
連携機関	機　関　名	《機 関 名》岡垣町教育委員会　生涯学習課
	責　任　者	《職・氏名》生涯学習課　公民館係　橋田　清美
事業実施日・回数		４月　２０日　　《計１回》
実施場所		岡垣町立内浦小学校　運動場
事業対象者 参加人数		九州共立大学スポーツ学部　教員：２名、学生：３名　計5名 事業対象者：マラソン大会参加者 参加者人数：200名（ウォーキング・マラソン大会参加者263名）
経　　費		あ　　り（講師謝礼・学生交通費岡垣町より支出）
事業目的・内容等及び実績及び効果		1．事業目的・内容等 包括的地域連携協定に基づく連携事業の一つとして、第１６回岡垣ウォーキング大会・マラソン大会にて、参加者に対してスポット講座「歩き方レッスン」、「走り方レッスン」を実施した。歩きや走る際のポイントに触れることで、ランニングやスプリント、ウォーキングの正しい姿勢について考えるきっかけとなり、今後のスポーツ活動や健康のための体力づくりを楽しく健康的に行えることを目的とした。 2．実績 「歩き方レッスン」には約50名の地域の方々、「走り方レッスン」には約150名の小学生が参加した。 3．効果 「走り方レッスン」に参加した小学生は楽しそうにレッスンに参加し、高齢者の方からは講座の後に、歩き方について熱心な質問があった。本学学生にとっても、小学生や高齢者の方に指導するという経験は貴重な経験となった。
学生の声		普段関われない小学生やお年寄りの方と関わることができて良い経験になった。 一方で、小学生にわかりやすく説明することの難しさを感じた。
今後の改善内容及び展開		「歩き方レッスン」の参加者の方から、講座内容の資料が欲しいという意見があったため、簡単な資料を配布することでレッスンの目的がさらに伝わると考えられる。

九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		2019年度
事業名		主　催：岡垣町社会福祉協議会 事業名：障がい者クリスマス交流会
九州共立大学	担　当　者	花田　道子
	所　　属	スポーツ学部
連携機関	機　関　名	《機 関 名》岡垣町社会福祉協議会
	責　任　者	《職・氏名》
事業実施日・回数		R1年12月8日～R1年12月8日　《計1回》
実施場所		いこいの里　団体研修室
事業対象者 参加人数		九州共立大学学生：スポーツ学部 5名　九州女子大学学生：16名　　計　21名 参加者人数：約80名
経　　費		あ　　り（　岡垣町社会福祉協議会　より支出）
事業目的・内容等及び実績及び効果		1．事業目的・内容等 障がい者のふれあい交流と社会参加の促進を目的に開催する。 2．実績 学生たちがプログラムを企画し実践した。 3．効果 地域連携室に岡垣町社会福祉協議会より昨年度に引き続き3回目の依頼がありました。これまで毎年実施されている障がい者クリスマス交流会が、マンネリ化しているので学生さんたちの柔軟な発想で「障がい者クリスマス交流会」を企画して欲しいとの依頼でお引受けした交流会も今年で3回目となり、参加者のみなさんも我々が行くことを楽しみにして下さっていました。今年度も障がいを持った方たちも一緒に楽しめるプログラムの作成に努めた結果、みなさん積極的に参加して下さり会場が笑顔に包まれました。帰り際に、「楽しかった！」とたくさんの方からお言葉を頂き、学生たちの自信にも繋がったようです。岡垣町社会福祉協議会の方からも来年も是非来て下さいとのことでした。
学生の声		子どもから高齢者の方まで参加されるので、みんなが笑顔になれるような内容を考えることが1番大変でした。帰って施設でもやってみたが、今回のように盛り上がらなかった。『学生さんたち凄い』と言うお手紙を頂いたことが嬉しかったです。
今後の改善内容及び展開		学生たちも責任感を持って関わり、貴重な経験をさせて頂きました。 今後も学生たちのマンパワーが社会の力となるようにこれからも頑張りたい。

≪令和元年度　岡垣町障がい者クリスマス交流会≫

みなさんとても楽しそうです☆

『ふれあい』をテーマにレクリエーションをしました(^^♪

みんなでダンス　　サンタ/トナカイさんゲーム

12/8（日）
集合：8：20　　場所：耕技館前
出発：8：30　　備考：紫ポロ・トレーナー集合

≪プログラム≫
○アダプテッドスポーツ研究部紹介　○リズムゲーム
○サンタ/トナカイさんゲーム　○ダンス

九州共立大学×水巻町

九州共立大学　経済学部　森江　由美子
九州共立大学　経済学部　入江　雅　仁

水巻町の活性化に向けた課題研究事業は、地域における問題を理解し、地域活性化のために自主的に活動できる学生の育成を行っています。

【大学祭「霜月祭」での PR 事業】
水巻町公式マスコットキャラクター「みずまろ」と水巻町特産品「水巻のでかにんにく」の PR に貢献しました。

【インターンシップ事業】
下水道課インターンシップ
　数値進捗管理の分析、他市町村との比較検討、結果報告 。
選挙管理委員会インターンシップ
　若年層における選挙投票率の向上について検討し、改善策の提案 。

【2019. 6. 1(土)　―水巻のでかにんにく収穫体験―】

収穫体験の様子

【2019.11.2　－霜月祭―】

特設ブース「水巻盛り上げ隊」

下水道課インターンシップ

選挙管理委員会インターンシップ

九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		2019年度
事業名		芦屋町健康講演会
九州共立大学	担　当　者	樋口　行人
	所　　属	スポーツ学部
連携機関	機　関　名	《機 関 名》　芦屋町　健康・こども課
	責　任　者	《職・氏名》　健康・こども課　課長　濵村　昭敏
事業実施日・回数		5月　１６日　　《計　　１回》
実施場所		芦屋町中央公民館
事業対象者 参加人数		九州共立大学　学生：経済学部　０名、スポーツ学部　０名　計　　０名： 事業対象者：　芦屋町食生活改善推進員、一般市民 参加者人数：　５０名
経　　費		あ　　り（地域連携推進センターより支出）
事業目的・内容等及び実績及び効果		1．事業目的・内容等 　芦屋町食生活改善推進会総会後に、一般市民も含めた健康講演会を実施した。運動実践も含めてとのことだったので、タイトルは「無理のない健康づくり運動の理論と実践」とした。対象が食生活改善進員であることを意識して、食の内容を取り入れた。 2．実績 　９０分の持ち時間を５０分の講義、４０分の運動実践とした。運動実践は、参加者がかなり同調してやってくれたように感じた。 3．効果 　食生活改善推進員からの運動の普及が見込まれる。質問も出ていたので、その効果が期待できる。
学生の声		当ゼミ生の参画を計画していたが、部活動試合と就職活動のため断念した。残念だったとのこと。
今後の改善内容及び展開		他のテーマでも行いたい。 　フラットな研修室であったので、この人数では後方の参加者は運動実践の動きが見づらかったと思う。

小学校２年生教科「生活科」における学習支援
―カブトムシの飼育を通じてー

九州共立大学スポーツ学部教授　田中雄二

はじめに

遠賀郡芦屋町にある芦屋町立芦谷小学校には、２０１８年夏の福岡県小学校教員採用試験を現役合格し、２０１９年４月から本採用教員として勤務している先生がいます。その先生から「カブトムシの幼虫を学習教材として用いたいのですが、分けていただけますか。」と相談がありました。時節柄、カブトムシの幼虫が蛹になるための準備をする頃なので、「できるだけ早い時期に、ゴールデンウィーク明けまでなら対応できます。」と回答したところ、５月８日に生活科の特別授業という枠組みで芦屋小学校２年生に一人１頭ずつ提供することとなりました。

カブトムシの幼虫をあつかう

５月８日の午後、５・６限を使ってカブトムシの幼虫を使った授業を行いました。学校敷地内の中庭で、４０×７０×３０（ｃｍ）の衣装ケースで飼育していた幼虫（５０匹）を土の中から一斉に取り出すと児童たちは「うわ、大量。」「え、大きい。」などと歓声にも似た声を上げました。児童一人一人が幼虫を受け取る準備をするため、担任の先生が、一人一つずつ用意してくれた虫かごに自らの手で腐葉土を入れ、幼虫が収まりやすい大きさの穴をあけました。そこに児童が幼虫を入れ、上から腐葉土で覆いをして観察用教材が完成しました。当日は温暖で（少し汗ばむくらいの）晴天だったためか、それぞれの幼虫が土の中でもぞもぞと動き、児童たちはその様子にしばし見入っていました。

幼虫が動いているので「幼虫さん暑いの？」と質問してくる児童もいました。「暑いのかもしれないし、居心地のいい場所をつくっているのかもしれないよ」と伝えると、動いている様子をお互いのケースを近づけながら見比べたりしていました。

作業が一通り終わったところでちょうど５時間目が終わったので、教材を持って教室に戻りました。片付け・移動・手洗いなどの一連の作業の最中にお互いが幼虫のことや腐葉土のことをたくさん語り合う光景が見られました。

幼虫→蛹→成虫の過程から何かを学ぶ

教室に戻っての６時間目は、筆者がゲストティーチャーとして幼虫飼育の話をしました。「ワクワクドキドキがたくさんあるのは分かりますが、幼虫が蛹に変わる頃、蛹で静かに過ごす期間、そして蛹から成虫になる時には、ちょっとした揺れなどで死んでしまうかもしれません。静かに見守りながら変わっていく様子を観察しましょう。」と幼虫飼育の際の約束

事を伝えました。想像力が豊かなのでしょうか、「オスだといいな」「メスだと卵産んでくれるかな」などと成虫になった時のことを期待しながら幼虫を観察していました。その様子を受けて筆者が「成虫までたどり着くのは難しいですよ。先生も最初の年は４０匹の幼虫を飼っていましたが、成虫になったのは１１匹でした。蛹になれなかった、蛹から脱皮できなかった、蛹から成虫になる途中の形で死んだ、など色々でした。」と語ったところ、「全員の幼虫が成虫になるように頑張る。」と言ってくれる児童もいました。飼育の楽しさ難しさを知り、生き物を扱う上での大切なことを、この短時間の中でも感じ取ってくれている様子がうかがえました。

身近な体験との交錯

飼育の話をしていると、「先生、僕もお家でカブトムシの幼虫捕まえたことあるよ。」と発言する子がいました。「えー、そんなとこにはいないよ。」と意見を言う子もいて、少し考えてもらおうと思い、質問をしてみました。「その幼虫は大きかったかな？そして頭は何色だったかな？」と尋ねると「小さいよ。それに黄色い。」と答えてくれたとたん、「それなら見たことあるー。」と何人かが答えました。「それはコガネムシの幼虫だね。頭の色や体の大きさが、虫の種類によって変わるんだよ。」と話をすると、改めて虫かごの幼虫を見つめなおしていました。俗にいう土の中のイモムシは見たことがあるし、今日もらった幼虫とも似ているから同じものだろうという発想は、体験の積み重ねとして非常に重要であるとともに、思いがそこに至るというプロセスを汲み取っていくことの大切さを改めて感じました。

後日談

カブトムシの幼虫を分け与えることは一時のことですが、その後の様子も記しておきます。「蛹になれなかった。」「成虫が出てこなかった。」「壁の近くで蛹になったのでたくさん見れました。」「何にも見えずに成虫が出てきた。」「失敗したので成虫を下さい。」などと各人が五感をフルに使って観察してくれた様子（経過）を報告してくれました。それならば、と５月に配布したものの残り（約２０匹：成虫になったもの）を寄贈しました。クラスみんなが喜んでくれたと、担任の先生から報告がありました。たかが昆虫、されど昆虫。この活動を通じて、「生きる」ということの意味（の一部）を育んでくれたら、と願う次第です。

（了）

九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		2019 年度
事業名		あしやハンズ・オン・キッズ　スポーツ大会
九州共立大学	担　当　者	山田　明
	所　　属	スポーツ学部
連携機関	機　関　名	《機 関 名》芦屋町役場
	責　任　者	《職・氏名》教育委員会・生涯学習課
事業実施日・回数		4月～6月　　《全5回》
実施場所		芦屋町立体育館
事業対象者 参加人数		九州共立大学　学生：スポーツ学部5名
経　　費		な　　し
事業目的・内容等及び 実績及び効果		1．事業目的・内容等 福岡県芦屋町が主催する青少年育成事業「あしやハンズ・オン・キッズ スポーツ大会について、学生ボランティアが、行政職員と協議しながら 企画・運営の全てを担当する。 2．実績 （1）事前準備について、芦屋町の行政職員と検討会を重ね、学生の視点 から、スポーツ大会の効果的な企画を提案した。 （2）現地の下見を入念に実施し、当日の円滑な運営に備えた。 （3）当日は、参加した学生みんなで協働しスポーツ大会の運営を実施した。 （4）事後の振り返りを行い、教育委員会に報告した。 3．効果 （1）学生は、スポーツ大会の企画・運営を通じて、企画力や情報収集能力を 磨き、課題発見能力及び課題解決能力を向上させた。 （2）スポーツ大会運営に関して、突発的に起こる課題に関しても慌てずに 適切に対応した。このことが自己肯定感の涵養につながった。 （3）振り返りにおいて課題を再確認し次回に繋げようとする姿勢が見られた。
学生の声		（1）スポーツ大会の企画から運営まで実施するという貴重な経験をした。 （2）当日のハプニングが多く、対応に困ったが何とかやり通した。
今後の改善内容 及び展開		スポーツ大会を企画するプロセスで、対象の小学生の様子や体育館等の施設 設備の状況を把握するなど、総合的な見通しをもって考えるという体験は貴重 であった。次回はより充実した大会になるようにサポートしていきたい。

九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		2019 年度
事業名		あしやハンズ・オン・キッズ　スポーツ（社会教育実習生受入事業）
九州共立大学	担　当　者	山田　明
	所　　属	スポーツ学部
連携機関	機　関　名	《機 関 名》芦屋町役場
	責　任　者	《職・氏名》教育委員会・生涯学習課
事業実施日・回数		4月～12月　　《全7回》
実施場所		芦屋町役場・町民会館・夜須高原青少年自然の家・芦屋海浜公園、等
事業対象者 参加人数		九州共立大学　学生：スポーツ学部２名
経　　費		な　　し
事業目的・内容等及び実績及び効果		1．事業目的・内容等 社会教育主事任用資格取得を希望する学生が、資格要件である社会教育実習として芦屋町主催の青少年育成事業「あしやハンズ・オン・キッズ」に参加し、運営ボランティアをしながら社会教育を学ぶプログラムである。具体的な内容としては、国際交流・サマーキャンプ・ものづくり・出店体験等であった。 2．実績 （1）事業運営について、芦屋町の行政職員の指導助言を受けながら、青少年育成事業（自然・生活・社会体験活動）に取り組んだ。 （2）年間を通じた各種活動に参加し、主体的な運営に取り組んだ。 3．効果 （1）すでに学んでいる社会教育に関する諸理論を実践の場で経験することで、社会教育に関する理解を向上させた。 （2）社会教育の実習の中で企画に関する経験をさせてもらい、実践的な学びの中で責任感や自己肯定感を涵養した。 （3）活動中の日誌（社会教育実習日誌）を詳細に書き、行政職員のコメントも得て、活動内容の振り返りを常にしながら実習内容を深めることができた。
学生の声		（1）3泊４日のサマーキャンプの運営に参加し、子どもたちだけでなく実習生である私たち自身も良い社会教育体験ができた。 （2）効果的な運営のために、子どもたちに声掛け（特にできたときに褒める）を通してコミュニケーションとることの必要性が理解できた。
今後の改善内容及び展開		本事業は、九州共立大学と芦屋町の地域連携事業に基づく地域連携事業である。次年度以降も、学生の学びの効果向上及び芦屋町の青少年育成事業の効果向上の視点で協議を重ねながらより良いプログラムにしていきたい。

【北九州市教育委員会】

部活動補助（各競技で専門性を持つ学生が、近隣の中学校で部活動外部講師として指導にあたる。 ）

木屋瀬中学校　（野球部）
浅川中学校　（テニス部）
沼中学校　（バスケット部）
永犬丸中学校　（バレー部）
向洋中学校　（バレー部）
本城中学校　（バスケット部）
折尾中学校　（卓球部）
本城中学校　（サッカー部）

スクールヘルパー派遣
【医生ヶ丘小学校】７名

【北九州市スポーツ協会】

公益財団法人日本体育施設協会認定「体育施設管理士養成講習会・資格認定試験」
体育・スポーツ施設の管理や運営についての豊かな知識と優れた技能を有する人財の育成を図る。
日時：令和２年２月１２日（水）～２月１５日（土）
場所：九州共立大学
受講者：１６名

【芦屋町役場】

学力向上推進事業（水泳補助）
水泳の授業を通して、泳力を高める。自分の記録を伸ばすことで、達成感を味わわせる。
①芦屋東小学校　２名
②山鹿小学校　１名
部活動指導
芦屋中学校　１名　サッカー

【遠賀信用金庫】

「拝命 社長秘書」の報告会

令和元年12月11日（水）、遠賀信用金庫との「包括的地域連携協定」の企画である、「拝命 社長秘書！」の報告会が開催されました。社長秘書として、就業体験を行う短期間（２日間）のインターンシップの報告会です。

報告会では、遠賀信用金庫の岡部憲明理事長から、大学との連携の意義や今回のインターンシップの効果についてのお話があった後、九州共立大学からは、５名の学生が、インターンシップに参加した理由や２日間の内容、今回の体験で学んだことなどを、ユーモアも交えながら熱心に発表しました。

学生たちからは、「今回の体験により、社長業の認識が大きく変わった」、「これからの学生生活や就職活動に向けて大きく役立った」などの報告があり、受入企業の皆様からも、「今回のインターンシップは、企業側にとっても刺激になった」、「来年度も学生を受け入れていきたい」などの感想をお聞きすることが出来ました。

九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		2019年度
事業名		脳活性化教室修了者への介護予防支援
九州共立大学	担　当　者	樋口　行人
	所　　属	スポーツ学部
連携機関	機　関　名	《機 関 名》　八幡西区（紹介）
	責　任　者	《職・氏名》　地域包括支援センター担当係長　原田めぐみ
事業実施日・回数		5月9日・7月11日・9月12日・1月9日　　《計　4　回》
実施場所		大原市民センター
事業対象者 参加人数		九州共立大学　学生：経済学部　0名、スポーツ学部　2名　計　　2名： 事業対象者：　区民（脳活性化教室修了者） 参加者人数：　10名
経　　費		あ　　り（個人研究費　より支出）
事業目的・内容等及び実績及び効果		1．事業目的・内容等 脳活性化教室（これ自体は行政の事業）修了者が自発的に集まっている勉強会「希望の会」（10名で活動）にて、運動を中心とした介護予防支援を実施した。運動のみならず、食事等も含めて広く介護予防につながる内容とし、また、本学学生の健康運動指導実践活動の場とするものである。 2．実績 5月9日　　年度初め体力測定　座位体操　＊学生参画 7月11日　ウォーキング　座位体操　＊学生参画 9月12日　消費エネルギー　座位体操 1月9日　　頭の体操　座位体操 3月12日　年度終わり体力測定　座位体操 （3月は予定） 3．効果 出席状況はまちまちであるが、来ることによって住民同士つながりもできているのではないかと思われる。学生が在学中に取得した資格を活かして活動するということに意義を感じてくれれば、それが最もよい効果である。
学生の声		後輩のために資格取得マニュアルを作成し、その中に今回行った社会活動を盛り込んだ。マニュアル冊子の評判は良かったので、資格を取ってみたいと思う人が増えてくれると嬉しい。
今後の改善内容及び展開		メンバーの新規募集は行っているが、さほど積極的ではない。最高齢の方が今年度から来れなくなってしまったように、段々と縮小の傾向にある。メンバー増加が必要である。

九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		2019年度
事業名		ちくてつ(筑豊電鉄)沿線魅力発掘事業
九州共立大学	担　当　者	澤田和英
	所　　属	経済学部
連携機関	機　関　名	《機 関 名》八幡西区役所・総合企画課 / 筑豊電気鉄道・運輸車両課
	責　任　者	《職・氏名》企画係長　三好秀樹氏　/　運輸係長　田川裕之氏
事業実施日・回数		5月22日・6月7日・7月11日・10月21日　　《計　4回》
実施場所		西区役所（企画会議）、ちくてつの駅周辺（穴生、三ヶ森、木屋瀬など）
事業対象者 参加人数		九州共立大学　学生：経済学部　11名、スポーツ学部　　名　計　11名： 事業対象者：ちくてつ沿線の住民、鉄道ファン 参加者人数：未発表のため不明
経　　費		な　　し
事業目的・内容等及び実績及び効果		1．事業目的・内容等 八幡西区の町づくりの一環として、黒崎から直方まで走るちくてつの沿線にスポットを当て、学生の感性、目線で地元の魅力を発掘して欲しいという依頼から始まった。 前期は八幡西区役所、ちくてつ側と打合せを持ち、ゼミ、ワークショップの学生が、無料パスを利用して、沿線スポットの取材を行った。後期も引き続き取材を行い、現在 そのまとめの方法について検討中。 2．実績 ５つの駅周辺をゼミ生、ワークショップ生が手分けして取材し、近隣の注目観光スポットや、人気の飲食店などを取材した。 西区役所の書式に則り、現在まとめを制作中。 3．効果 ホームページ掲載が来年以降の見込みであり、現在では不明。
学生の声		中間市から自由ケ丘高校へ通っていた1名を除き、ほぼ全員が乗車経験がなく、最初は取材や魅力発掘に戸惑っていた。 もう少し、ちくてつ側に熱意があるとよい。
今後の改善内容及び展開		八幡西区役所主導の企画であったので、中間市の駅は取り上げられないなどの制約もあり、残念だった。HPでの反応を見極め、次年度以降の継続をするかどうが、話し合いを行う予定。

九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		2019年度
事業名		スイムフェスタ2019
九州共立大学	担　当　者	森　誠護・重枝　武司
	所　　属	スポーツ学部
連携機関	機　関　名	主催：九州共立大学地域連携推進センター、協力：九州共立大学水泳部
	責　任　者	《職・氏名》九州共立大学　准教授・森　誠護
事業実施日・回数		8月　8日《計　1回》
実施場所		福原学園屋内公認プール
事業対象者 参加人数		九州共立大学　学生：経済学部 3名、スポーツ学部 26名　計 29名： 事業対象者：心身ともに健康な小学生／参加者人数：46名・
経　　費		あ　　り（　特別研究費　より支出）
事業目的・内容等及び実績及び効果		1．事業目的・内容等 近年、社会環境や生活様式の変化などにより、運動機会の減少や生活習慣の乱れが生じ、子供の体力の二極化現象が生じている。水泳においては、スイミングクラブが増加し、水泳を習う機会はあるものの、学校体育で水泳を教わる機会や時間は減少していることから、水泳能力においても二極化が進んでいる。 本事業では北九州市近郊の小学生を対象にした水泳イベント「スイムフェスタ」を開催し、スイミングクラブ等に通っている子供や学校体育のみで水泳を習っている子供の泳力を測定することで、学校体育における水泳指導の現状と今後の課題を明らかにすることを目的とする。 2．実績 本イベントを実施するにあたり、学生と準備を進め、大会運営についても学生の協力を得た。イベントの周知には、大会HPを作成し、SNS等での周知を行なった。近隣の小学校にはチラシを配布し、折尾駅にはポスター掲示の依頼を行なった。定員100名のところ、50名の申し込みがあり、4名が当日欠席したため、46名の小学生が本イベントに参加した。 3．効果 イベント終了後には参加者全員にアンケートを送付し、その結果、次年度以降もぜひ参加したいなど、好意的な意見が多く得られた。
学生の声		本イベントを通じて、地域の小学生と触れ合うことで、改めて水泳教育の大切さや子供と触れ合うことの大切さについて学習することができた、との意見が多く聞かれた。
今後の改善内容及び展開		今回のイベントを開催することで、子供たちの動機付けになるようなイベントであることが理解できた。今回の反省を生かして、次年度以降も同時期にこのイベントを開催していきたいと考えている。また、今回は残念ながら定員に達することができなかったため、次年度以降は周知方法を工夫していきたい。

九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		2019 年度
事業名		北九州ゆめみらいワーク　2019
九州共立大学	担　当　者	大川内夏樹　金子研太　木村美奈子　吉田友紀
	所　　属	経済学部
連携機関	機　関　名	《機 関 名》北九州市産業経済局総務政策部 雇用政策課
	責　任　者	《職・氏名》地元就職促進担当課長　小田　聡
事業実施日・回数		8月２３日・8月２４日　　《計２回》
実施場所		西日本総合展示場　新館
事業対象者 参加人数		九州共立大学　学生：経済学部　１３名、スポーツ学部　　名　計　　名： 事業対象者：高校生、小・中学生、大学生、保護者、教員等 参加者人数：7,504人（うち高校生4,347人）
経　　費		あ　　り（　入試広報課、経済学部　より支出）
事業目的・内容等及び 実績及び効果		1．事業目的・内容等 昨年にひきつづき、北九州市が主催する「北九州ゆめみらいワーク」に出展した。企業、団体約９０社、大学、短大、専門学校等約40校が出展するこのイベントでは、キーワードごとに、企業・大学・短期大学・専門学校のブースが設置されており、大学・短大等は、ゼミ体験などを紹介し、その面白さや魅力、学びの重要性を伝えることをその内容としている。 本学経済学部は、高校生を中心とする来場者に対して、「ゲーム理論」に関するゼミ体験を通じて、本学の学生・教員と交流をしつつ、経済学部の魅力や学びの在りようを知ってもらう取り組みを行った。 2．実績 担当教員で事前打ち合わせを数回行い、出展直前には、アシスタント学生を集めて、説明会を行った。 イベント前日の8月22日には、担当教員で会場設営を行った。 イベント当日の8月23・24日は、担当教員および学生アシスタントで、経済学部のブースを出展し、来場者との交流を行った。 3．効果 高校生を中心とした来場者に対して、経済学部のゼミ体験（「ゲーム理論」を利用したゲーム）、本学学生・教員との交流、パネル展示、大学紹介動画の上映を行い、九州共立大学経済学部の学びの在りようや魅力、そして学生生活の様子を知ってもらうことができた。
学生の声		・学外の人との交流ができ、コミュニケーション力が高まった。 ・高校生に対して「ゲーム理論」の説明をすることで、教育実習の練習になった。
今後の改善内容 及び展開		・昨年に比べ、アシスタントの学生が増えたことで、来場者への対応がスムーズに行えた。 ・学生の会場までの交通費を入試広報課から支給してもらいたい。

九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		2019年度
事業名		九州共立大学×ギラヴァンツ北九州　シニア健康教室
九州共立大学	担　当　者	森部　昌広
	所　　属	経済学部
連携機関	機　関　名	《機 関 名》株式会社ギラヴァンツ北九州
	責　任　者	《職・氏名》強化・育成・普及本部長　下田　功
事業実施日・回数		6月14日・6月28日・7月3日・7月12日・9月7日・10月31日・11月9日・11月29日　　実施回数：《計８回》　　今後の実施予定：8回
実施場所		若松中央市民センター・楠橋市民センター・大理南市民センター・大蔵市民センター・東谷市民センター・楠橋市民センター・松ヶ枝市民センター・西門司市民センター他
事業対象者 参加人数		九州共立大学　学生：経済学部　４名 事業対象者：北九州各地区市民センター利用者 参加者人数：245人（事業実施中途集計データ）
経　　費		な　　し
事業目的・内容等及び 実績及び効果		1．事業目的・内容等 目的：高齢者の方々が体を動かし、人と触れ合うことで心と身体の健康維持増進を図ることを目的とする。健康に対する正しい知識や身近でできる運動処方を学ぶことで日々の運動に関する動機づけを得る事も大きな目的となる。最終的には、北九州市在住の高齢者の健康増進を促進することによる医療費の削減と街の文化的経済的活性化を図ることを目的としている。 内容１：森部の目からウロコの転倒予防講座＆自宅でできる筋力トレーニング ＊転ばない身体づくりと膝の痛み除去に役立つ筋力トレーニング ＊正しい歩き方 内容２：ギラヴァンツサッカースクールコーチによる認知症予防のための運動を用いた脳活性化プログラム ＊二つの異なる動きを同時に行う運動 ＊左右で異なる動きをする運動 2．過去実績（参考データ） 2014年：実施回数：4回　　参加者数：112名 2015年：実施回数：5回　　参加者数：146名 2016年：実施回数：20回　参加者数：395名 2017年：実施回数：16回　参加者数：539名 2018年：実施回数：27回　参加者数：863名 3．効果 今年で6年目を迎えるギラヴァンツシニア健康教室は、総実施回数80回、総参加者数は2,300人を超えた。殆どのケースが北九州市内の市民センターで実施しており、熱心な校区では毎年リピート開催を求めてこられている。市内では確実に年々高齢者の「転倒予防筋トレへ」の意識が向上し、高齢者でもしっかり筋力を付けることで「転ばない身体づくりと膝の痛みを取り除くことができる」という考え方が広まっていきつつある。また、各地区市民センターの館長各位からロコミで横方向への広がりも始まっている。

学生の声	北九州の高齢化や人口減少といった問題は、日本の現状を規模縮小したものであることが講座に参加して分かりました。とても深刻な課題であることは間違いありませんが、講座に参加された高齢者の方々が皆さんとても楽しそうで、表情も顔色も来た時よりも良くなってお帰りになるのを見て事態の改善の可能性を感じました。これはスポーツビジネスの一つの可能性になると思います。
今後の改善内容 及び展開	次年度の事業継続もほぼ間違いないと思われる。今年度は初の試みとして経済学部1年次開設科目である研究会D及びワークショップAとも連携した。学生たちはインターンシップや演習的に参加し、その取り組みを発表した2019年度人生100年時代の社会人基礎力育成グランプリ九州・沖縄地区大会では最優秀賞を受賞して全国大会出場を決めた。引き続き新しい課題を設定して成果物を一つでも多く生み出して地域に貢献したい。

九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		2019年度
事業名		健康運動指導士養成講習会【福岡会場】
九州共立大学	担　当　者	樋口　行人
	所　　属	スポーツ学部
連携機関	機　関　名	《機 関 名》　公益財団法人健康・体力づくり事業財団
	責　任　者	《職・氏名》　事業部　浅海　清
事業実施日・回数		7月　6日　（土）　《計　1　回》
実施場所		ＴＫＰガーデンシティ天神
事業対象者 参加人数		九州共立大学　学生：経済学部　０名、スポーツ学部　０名　計　　０名： 事業対象者：　講習会受講者（健康運動指導士志望者） 参加者人数：　51名
経　　費		あ　　り（公益財団法人健康・体力づくり事業財団　より支出）
事業目的・内容等及び実績及び効果		1．事業目的・内容等 健康・体力づくり事業財団は、「国民に対する健康・体力づくりの普及啓発」を使命とし、その事業の一つとして、「健康運動指導士」という運動指導者の養成及び資格認定を行っている。 この度、養成講習会の講師として依頼を受け、養成講習会テキスト第１５章の「栄養・食事アセスメント（低栄養対策含む）」の講習（講義）を90分間受け持った。 2．実績 参加者５１名。パワーポイント映写、配布、板書を用いたため興味を引けたと思われる。事後の質問も活発で好評であった。 3．効果 福岡会場ということで、今後健康運動指導士となり、この地域の健康を担っていく人材の育成に貢献できた。高齢化率の高い福岡で、地域の健康を下支えする基盤ができつつある。
学生の声		学生の参画はなし。
今後の改善内容及び展開		健康運動指導士育成は地域活性化にもつながると思われるので、健康運動指導士合格率１００％を２年続けている本学部としても、学生・社会人ともに育成していく必要がある。

九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		2019年度
事業名		健康運動実践指導者養成講習会【福岡会場】
九州共立大学	担　当　者	樋口　行人
	所　　属	スポーツ学部
連携機関	機　関　名	《機 関 名》　公益財団法人健康・体力づくり事業財団
	責　任　者	《職・氏名》　指導者養成部　草刈　有
事業実施日・回数		2月　6日　　《計　1　回》
実施場所		アクシオン福岡
事業対象者 参加人数		九州共立大学　学生：経済学部　0名、スポーツ学部　0名　計　　0名： 事業対象者：　講習会受講者（健康運動実践指導者志望者） 参加者人数：　51名
経　　費		あ　　り（公益財団法人健康・体力づくり事業財団　より支出）
事業目的・内容等及び実績及び効果		1．事業目的・内容等 健康・体力づくり事業財団は、「国民に対する健康・体力づくりの普及啓発」を使命とし、その事業の一つとして、「健康運動実践指導者」という運動指導者の養成及び資格認定を行っている。 この度、養成講習会の講師として依頼を受け、養成講習会テキスト第８章の「ウォーキングとジョギング」の講習（実習）を１８０分間受け持った。 2．実績 参加者５１名。前半の講義部分は、パワーポイント映写、配布、板書を用いたため興味を引けたと思われる。実習は「きれいに歩く」ことを基本とした。事後の質問も活発で好評であった。 3．効果 福岡会場ということで、今後健康運動実践指導者となり、この地域の健康を担っていく人材の育成に貢献できた。高齢化率の高い福岡で、地域の健康を下支えする基盤ができつつある。
学生の声		学生の参画はなし。
今後の改善内容及び展開		受講者のレベルがまちまちなので、基礎的な事項しかできない。今後はNPO法人ランニングチームで教えている経験や、GFI WEI資格内容を活かしていきたい。

九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		2019 年度
事業名		中国・四国・九州地区　生涯教育実践研究交流会
九州共立大学	担　当　者	山田　明
	所　　属	スポーツ学部
連携機関	機　関　名	《機 関 名》日本生涯教育学会・福岡県教育委員会　主催
	責　任　者	《職・氏名》
事業実施日・回数		2019年5月18日～19日　　《１回》
実施場所		福岡県立社会教育総合センター
事業対象者 参加人数		九州共立大学　学生：　スポーツ学部12名　教員１名　　計13名
経　　費		な　　し
事業目的・内容等及び 実績及び効果		1．事業目的・内容等 日本生涯教育学会、福岡県教育委員会が主催する生涯教育実践交流会に学生12名が運営ボランティアとして参加した。本交流会は、西日本最大の生涯教育に関する会合で、開催2日間で述べ600名を超える参加者がある。各県から運営メンバーとして参加している行政公務員と協力して交流会を を運営した。 2．実績 （1）生涯教育実践研究交流会の円滑な運営に、ボランティアの学生が大いに貢献した。参加した学生は、修了式で実行委員会から賞賛を受けた。 （2）ボランティア交流会では、各自治体関係者、生涯教育関係者等と接する良い機会になり、公務員志望の学生にとっては進路に向けての学びともなった。 3．効果 （1）学生は各県の生涯教育関係者と接し、地域の課題について当事者意識を持ち、地域活性化について自分のこととして捉える学びができた。 （2）各自治体関係者と接した公務員志望の学生は、進路に関して具体的な話をする機会を得て十分に交流できた。
学生の声		（1）運営ボランティアを担当した経験は、難しかったが貴重な経験になった。 （2）各県の生涯教育関係者の実践事例を聞いて社会教育により興味をもった。
今後の改善内容 及び展開		生涯教育実践研究交流会は、毎年5月に2日間にわたり開催される。中国・四国九州地区の教育委員会、その他自治体関係者、生涯教育実践者が情報交換する会である。参加学生がより多くのことが学べるように、さらに工夫したい。

九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		2019 年度
事業名		福岡県立社会教育総合センター主催「ゆずフェスティバル」学生ボランティア
九州共立大学	担　当　者	山田　明
	所　　属	スポーツ学部
連携機関	機　関　名	《機 関 名》福岡県立社会教育総合センター・福岡県教育委員会
	責　任　者	《職・氏名》
事業実施日・回数		11月10日　《１回》
実施場所		福岡県立社会教育総合センター
事業対象者 参加人数		九州共立大学　学生：　スポーツ学部53名 事業対象者： 参加者人数：
経　　費		な　　し
事業目的・内容等及び実績及び効果		1．事業目的・内容等 福岡県立社会教育総合センター及び福岡県教育委員会が主催する青少年育成事業である「「ゆずフェスティバル」において、子どもの各種体験活動、例えば自然体験・生活体験・社会体験の活動をサポートする。 2．実績 （1）事前研修で、子どもの自然体験・生活体験・社会体験の活動をサポートするためのプレイリーダーとしての心構えを確認した。 （2）事前研修で、ボランティア学生は各自の担当に関する準備をした。 （3）当日、主催の福岡県立社会教育総合センター及び福岡県教育委員会の担当者と一堂に会し最終打ち合わせをした上で、ボランティアを実施した。 3．効果 （1）活動を通じボランティア対象者の子どもの理解ができるようになった。 （2）各自の担当の持ち場に関する体験活動のサポートができるようになった。 （3）主催の福岡県立社会教育総合センター及び福岡県教育委員会の職員から賞賛をうけ、自己肯定感が高まった。
学生の声		（1）子どものニーズに対応してサポートすることは難しかった。 （2）サポートした子どもから感謝の言葉を言われたときとてもうれしかった。
今後の改善内容及び展開		本事業は、福岡県の社会教育事業においても重要な行事であり、青少年育成という次世代構築に向けての意義のある活動である。学生ボランティアに学んでもらいたい子ども理解や活動サポートスキルの内容をさらに充実させたい。

九州共立大学（山田　明教授＋学生）の講義

（1）主催　　ESD推進　いきいきシニア塾　（会員；56名）
（2）日時　　2019年12月9日（月）　10:00～12:00
（3）場所　　筒井市民センター（第5会議室）　（八幡西区）
（4）演題　　九州共立大学スポーツ学部による地域活性化プロジェクト
（5）講師　（敬称略）
　・スポーツ学部　教授
　　山田　明
　・学生；スポーツ学部　山田ゼミ（4年）
　　樽茶ちなみ（愛媛県出身）
　　古賀翔哉　（福岡県出身）
　　仲村　武　（沖縄県出身）
（6）講義内容
　　P－2，3、4　参照

★　各学生が担当プロジェクトの概要をわかり易く説明、その後で、山田教授が補足解説。　とても有意義な講座でした。

★　各講師に対して沢山質問が出て、大変な盛り上がり！

★　孫の発表を聴き入る様な雰囲気でいい感じ！

（報告書作成：北九州ＥＳＤ協議会個人会員　金子良憲）

1

2019年12月9日（月）

九州共立大学　スポーツ学部　山田ゼミ

岡垣プロジェクト 2017－2019（2020）

大島プロジェクト 2018－2022

九州共立大学　スポーツ学部　山田　明

Ⅰ　岡垣プロジェクト 2017－2019（2020）

1．目的

（1）岡垣町のローカルな知、大学の知、学生の学びを協働させ、住民のニーズにもとづく地域活性化の活動を通してまちづくりに寄与する。

（2）学生ボランティアが主体的に企画・運営・実施をすることで、時代を生き抜く市民性を涵養する。

2．活動内容

（1）岡垣学＜Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ＞

歴史と自然と人権の町“岡垣”を町内外に広報する地域学（地元学）を構築する。

（2）岡垣歴史新聞

“まちの魅力発見”をテーマにした地域活性化新聞の作成。学生の視点で取材、執筆、編集を実施し発行する。

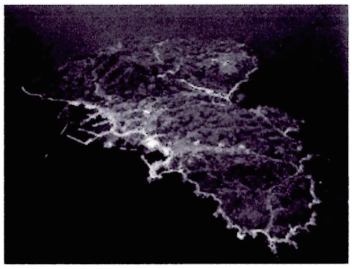
（3）小中学校における人権学習のサポート

人権意識調査（2017年）、学習指導案及び資料の作成と提供（2018年）の成果を踏まえ、岡垣町主管の教育機関（小・中学校）で模擬授業を実施し、岡垣町の人権教育の充実に貢献する。

＜専門分野＞
・社会教育学　　・生涯学習論
・ボランティア論・スポーツ行政

2

Ⅱ　大島プロジェクト 2018−2022

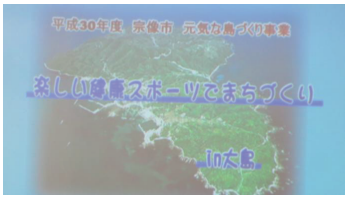


1．目的

離島の自立的発展を促進し、人口減少の防止並びに島民の健康づくりの促進を図るため、スポーツを通した健康づくり及びコミュニティづくりに関する活動を行う。コミュニティづくりを視野に入れた世代間交流も実施する。子育て中の保護者にも、相談できる環境をつくり、子育てに悩む保護者同士のコミュニティづくりにも貢献する。

2．活動内容

2018 年度から 2021 年度までの 4 年間は対象を限定し 1 年間を通して健康づくりやコミュニティづくりが推進できるようなしかけを行い、元気な島づくり交流事業として健康・スポーツ支援を実施し、体力測定も行う。2022 年度については、4 年間の総括としてスポーツ健康大会を実施する。なお毎年実施される全島体育大会（10 月）に参加し運営に協力する。



← 動画を使って楽しい
各種イベントの様子を紹介

3

Ⅲ　本日の報告

1．岡垣プロジェクト

（1）岡垣学の構築：樽茶ちなみ＜スポーツ学部 4 年、愛媛県出身＞

（2）岡垣歴史新聞:古賀翔哉＜スポーツ学部 4 年、福岡県出身＞

（3）小・中学校における人権学習のサポート：樽茶ちなみ＜スポーツ学部 4 年、愛媛県出身＞

2．大島プロジェクト：仲村　武＜スポーツ学部 4 年、沖縄県出身＞

樽茶ちなみ

古賀翔哉

仲村　武

4

ESD推進　いきいきシニア塾

最後に3学生から発表　（プロジェクトに参加して得たもの、将来の夢、本日の感想・・）

★　山田教授からご挨拶

・学生に発表の機会を頂いたことへの御礼

・沢山の意見交換の中で、参考になる助言もいただいた

・今後のプロジェクトの紹介
　折尾、黒崎・・等地元のプロジェクトの準備が進んでいる

5

3学生も参加し、楽しく歓談しながら食事会　　（山田教授は所用で欠席）

6

九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		2019年度
事業名		主　催：NPO法人　香月・千代スポーツクラブ 事業名：香月・千代ジュニアスポーツ体験教室
九州共立大学	担　当　者	梨羽　茂　　花田　道子
	所　　属	スポーツ学部
連携機関	機　関　名	《機 関 名》香月・千代スポーツクラブ
	責　任　者	《職・氏名》香月・千代スポーツクラブ　陣内会長
事業実施日・回数		5月18日・5月25日・6月1日・6月15日・6月22日・6月29日・7月6日《計7回》
実施場所		香月小学校体育館
事業対象者 参加人数		九州共立大学学生：スポーツ学部　13名　九州女子大学学生：24名　　計37　名 事業対象者：15名（香月・千代スポーツクラブスタッフ） 参加者人数：49名（小学生）×　7回
経　　費		な　し
事業目的・内容等及び実績及び効果		1．事業目的・内容等 北九州市市民文化スポーツ局スポーツ振興課からの依頼で、「小学校の児童を対象に、遊びの要素を持つ運動やオリンピック種目の体験を通じて、生涯にわたり運動・スポーツに親しむきっかけづくりを行う」ことを目的とした事業。 2．実績　　本学は、スポーツプログラムの企画・立案及び指導を担当した。 ※5月18日の体力測定は、8：30～12：00、6月29日の体力測定は、9：30～12：00、7月8日の食育（ｱｳﾄﾄﾞｱ）は9：30～13：00、それ以外は、10：00～12：00の2時間実施した。 3．効果 香月・千代ジュニアスポーツ体験教室では、毎週土曜日、「おはようございます！」と笑顔で子どもたちがやって来る。年齢が異なる子ども同士がグループとなり一緒に活動する中で上級生が下級生の面倒を見たり、一緒に頑張る姿が見受けられる。 また、スタッフの学生やNPO法人香月・千代スポーツクラブのスタッフの方々との関わりから、友達関係をつくったり、維持してくのに必要なコミュニケーションのコツやスキルを学べる場となっている。学生たちにとってもスポーツ指導の現場を体験できる良い機会であり、スポーツ支援を通した指導者育成の場となっている。
学生の声 スポーツ学部4年 橋本珠寿帆		私は今回学生リーダーを務めさせて頂きましたが、子ども達と日頃あまり関わる機会がなく初めての体験ばかりで、伝えることの難しさや、楽しませる工夫など多くのことを学ばせて頂きました。この経験をこれからの活動につなげていきたいと思います。
今後の改善内容及び展開		7回と言う少ない実施回数の中、子どもたちの体力向上を目指したプログラム作りと指導学生の指導スキルの向上を目指し、今後も、総合型スポーツクラブとの連携を深めながら、北九州市の子どもたちの体力の向上及び健康づくりの促進に貢献したい。

≪令和元年度　香月・千代ジュニアスポーツ体験教室≫

九州共立大学　スポーツ学部４年　諸江智大

今年も、香月・千代ジュニアスポーツ体験教室を通して子ども達と楽しく活動をすることが出来ました。毎週サークルの仲間とプログラムを話し合い、どうすれば子ども達の体力が向上するのか、子ども達が楽しんでくれるのかアイデアを出し合いました。

活動の中で子ども達の素直な心や一生懸命に取り組む姿をみて、毎回元気を貰っていました。将来、小学校の教員を目指している私にとって子ども達と関われるこの教室は、今後に繋がる良い経験となりました。大学１年生から４年生まで４年間関わらせて頂き、子ども達の成長を感じることが出来、これからも子ども達の成長に携わっていきたいと言う気持ちが強くなりました。今後も子ども達に身体を動かすことの楽しさや大切さを伝えていきたいと思います。ありがとうございました。

準備体操

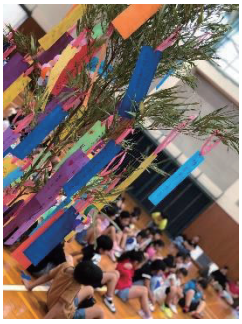
握　力

反復横跳び

立ち幅跳び

20mシャトルラン

ソフトボール投げ



ポケモン釣り

○体力向上
　プログラム

○アウトドア
　クッキング

九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		2019年度
事業名		主　催：九州共立大学・九州女子大学アダプテッド・スポーツ研究部 事業名：知的障がい・発達障がい児を対象とした「ニコニコ体操教室」
九州共立大学	担　当　者	花田　道子
	所　　属	スポーツ学部
連携機関	機　関　名	《機 関 名》ニコニコ体操教室　保護者会
	責　任　者	《職・氏名》保護者会会長　桑野　暁子
事業実施日・回数		R1年5月27日～R2年2月8日　第2・第4土曜日開催月2回《計20回》
実施場所		九州女子大学　錬成館1階ダンスルーム　・玄海少年自然の家「玄海の家」
事業対象者 参加人数		九州共立大学学生：スポーツ学部　15名　九州女子大学学生：40名　　計55　名 参加者人数：子ども40名（きょうだい児含む）
経　　費		○あ　　り（　保護者会　より支出）　　・　　な　　し
事業目的・内容等及び実績及び効果		1．事業目的・内容等 知的障がい児及び発達障がい児を対象とし、大学の施設及び知的財産を活用して実施している体操教室。この教室は大学生が、障がいを抱える子どもたちに対して、スポーツの楽しさを伝えることを目的とした地域貢献活動。年に1回1泊2日のキャンプを実施。 2．実績 月2回（土曜日）の体操教室を午前中（10：00～12：00）実施した。 10月：福岡県立少年自然の家「玄海の家」にて1泊2日のキャンプを企画・運営した。 2月：子どもたちとのバス遠足を企画・実施した 3．効果 子どもたちは、毎回の体操教室をとても楽しみにしてくれている。学生たちがマンツーマンで子どもたちをサポートすることで、子どもたちはスポーツ活動を楽しむことができる。また、学生たちにとっても発達障がい児に対するスポーツ支援活動をとおして、コミュニケーション能力の改善と向上に寄与していることが考えられる。今年度はアダプテッドスポーツ研究部（スポーツ学部）から福岡県教員採用試験に2名の学生が合格した（小学校1名・中学校1名）。これから、多様な子どもたちのことを理解してあげられる先生として即戦力で活躍してくれることと思う。
学生の声		キャンプリーダーをさせて頂き、とても大変でした。下見から当日の流れをシミュレーションしたり、企画・運営を実際行うことでこれまで気付かなかったことに気付くことができました。見えないところで動いてくれている仲間に感謝です。
今後の改善内容及び展開		学生スタッフのスキルアップを行い、今後も、北九州市の特別支援学校等と連携を深めながら、北九州市の障がい児の余暇支援としてスポーツをとおして、生きがい、健康、ふれあい、社会参加の促進に貢献したい。

≪令和元年度ニコニコ体操教室主催：ニコニコキャンプ≫

おあつまり　　グリーンパーク散策

みんなが『楽しめる』を目的に行っています(^^♪

障害ある子どもをサポート

いっぱい遊びました

最後の挨拶では、人前ではほとんど喋らずにじっと立っていることが多いKでしたが、小さい声で話した時は子供の成長を感じました。色々な体験が出来て良かったです。　保護者感想

≪令和元年度　ニコニコ体操教室≫

おあつまり

レンジャー

さまざまな運動遊びを取入れ
楽しく身体を動かしています。

大きなボールをみんなで回します。

ボール遊び

誰もが楽しめることが目標

九州共立大学　地域貢献・連携事業報告書

年　　度		2019年度
事業名		主　催：北九州市立年長者研修大学校　穴生学舎 事業名：北九州市立年長者研修大学校　穴生学舎研修　地域ふれあいコース
九州共立大学	担　当　者	花田　道子
	所　　属	スポーツ学部
連携機関	機　関　名	《機 関 名》社会福祉法人北九州市社会福祉協議会 北九州シニアネットワークアカデミー穴生学舎事務課
	責　任　者	《職・氏名》北九州市立年長者研修大学校　穴生学舎　所長　藤澤　隆文
事業実施日・回数		4月18日　《計　1　回》
実施場所		北九州市立年長者研修大学校　穴生学舎　2階第2研修室
事業対象者 参加人数		九州共立大学学生：スポーツ学部　0名　九州女子大学学生：1名　　計　1　名 参加者人数：24名（高齢者）
経　　費		○　あ　　り（北九州市職員研修所の基準により謝金）　　・　　な　　し
事業目的・内容等及び実績及び効果		1．事業目的・内容等 北九州市では、高齢者の生きがい、健康、ふれあい、社会参加の促進を目的に年長者研修大学校を設置し、各種講座を実施している。 2．実績 地域ふれあいコースの24名に対し、講義のテーマの『初めまして』仲間づくり～学びの環境づくり～を行った。 3．効果 はじめての場所に参加するとき「どんな人が来てるのかな」「ついて行けるかな」などドキドキする。そんなドキドキをあっと言う間に解消できるような仲間作りの手法を体験してみることを目的に、自分が自分らしく表現できるそんな環境づくり、仲間づくりを行った。女子学生が一緒に活動してくれることでとても和やかな雰囲気の中、実施でき、学びを通じた北九州年長者の健康づくり・生きがいづくりに貢献できた。 地元北九州市の年長者大学校穴生学舎との連携が促進された。さらに、本学の地域貢献に努めたい。
学生の声 九州女子大学4年 有馬瑞希		日頃は子どもたちと接することが多いのですが、今回は高齢者の方々に温かく受け入れて頂き、実際にレクリエーションを行うことができました。言葉づかいに気を付けて、対象に合わせたレクリエーション支援の方法を実際に学ぶことができて良かったです。
今後の改善内容及び展開		学生をアシスタントとして参加させることで、参加者のみなさんにとても喜んで頂くことができた。今後も、北九州市年長者大学校穴生学舎との連携を深めながら、北九州市の高齢者の生きがい、健康、ふれあい、社会参加の促進に貢献したい。

2019年度資格取得支援プログラム講座別受講者数集計表（延べ数）

2020年3月31日現在

講 座 名	講座期間	合計	九州共立大学					九州女子大学					九州女子短期大学			教職員	卒業生	一般
			1年	2年	3年	4年	合計	1年	2年	3年	4年	合計	1年	2年	合計			
公務員試験対策講座教養コース	5/31～2020/4/28	57	0	6	44	0	50	0	0	7	0	7	0	0	0	0	0	0

2019年度公開講座実施報告

2019年度に地域連携推進センターで開講された講座、個別専門講座8講座、市民講師講座2講座の合計10講座でした。各講座受講者の延べ人数は2,891名、受講者数は297名でした。

【公開講座】

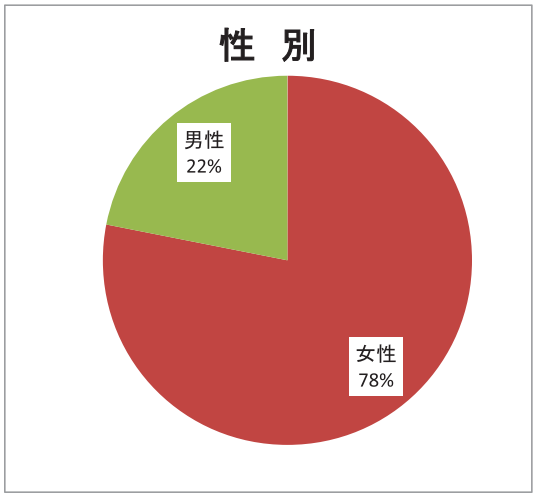
2020年3月31日現在

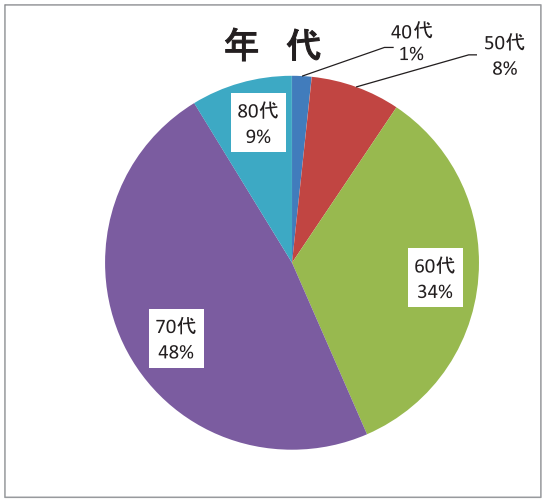
コース	NO	講　座　名	実施時期・回数	受講生数 男	女	計	担　当　講　師
語学	1	パーカー先生と楽しく英会話	5/7～7/23　火曜日 11:00～12:30　12回	1	14	15	九州共立大学 非常勤講師 パーカー・アントニー・ジョン
			10/15～2020/1/28　火曜日 11:00～12:30　12回	1	9	10	
文学	2	『源氏物語』を読む	5/8～7/31　水曜日 10:50～12:20　13回	4	8	12	元九州共立大学 元九州女子大学 教授 武藤　昭廣
			10/2～2020/1/29　水曜日 10:50～12:20　15回	5	7	12	
	3	『松本清張』を読む	5/10～8/2　金曜日 10:45～12:15　12回	3	2	5	九州女子大学 教授 荻原　桂子
			10/11～2020/1/31　金曜日 10:30～12:00　12回	2	3	5	
	4	源氏を語る会	5/10～8/2　金曜日 13:05～14:35　12回	1	10	11	
			10/5～H31.1/25　毎週金曜日 13:15～14:45　12回	1	10	11	
芸術	5	極める!!「書道」	5/10～7/19　金曜日 13:00～14:30　10回	2	22	24	九州女子大学 准教授 古木　誠彦
			10/11～2020/1/31　金曜日 13:00～14:30　12回	2	17	19	
	6	「論語」の味読	5/8～7/17　水曜日 10:30～12:00　6回	4	8	12	九州女子大学 准教授 古木　誠彦
			10/16～2020/1/29　金曜日 10:30～12:00　8回	2	6	8	
	7	楽しく書く隷書	5/8～7/24　水曜日 10:30～12:00　12回	3	13	16	九州女子大学 准教授 大迫　正一
			10/2～12/18　水曜日 10:30～12:00　12回	3	13	16	
スポーツ	8	スポーツ吹矢で集中力アップ	5/10～7/26　金曜日 10:00～11:30　6回	5	15	20	九州共立大学 名誉教授 信田　よしの
			10/11～2/28　金曜日 10:00～11:30　9回	4	9	13	
	9	スポーツ吹矢でリフレッシュ	6/1～8/3　土曜日 10:00～11:30　4回	7	14	21	
			10/5～2/29　土曜日 10:00～11:30　7回	8	10	18	
“公開講座”　計				58	190	248	

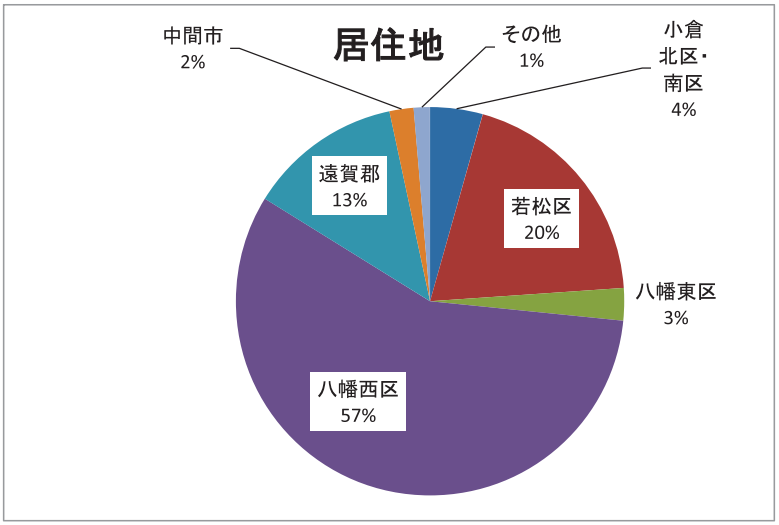
【市民講師講座】

NO	講　座　名	実施時期・回数	受講生数 男	女	計	担　当　講　師
1	歌う喜び『世界の名曲』	5/8～7/24　水曜日 13:30～15:00　6回	2	16	18	講師 八代 眞知子
		10/9～2020/1/22　水曜日 13:30～15:00　8回	1	14	15	
2	美しい韓国語	5/7～7/23　火曜日 10:00～11:30　12回	2	6	8	講師 朴　淑子
		10/1～2020/1/28　火曜日 10:00～11:30　14回	2	6	8	
“市民講師講座”　計			7	42	49	
合　計			65	232	297	

※受講生状況







※講座終了アンケート

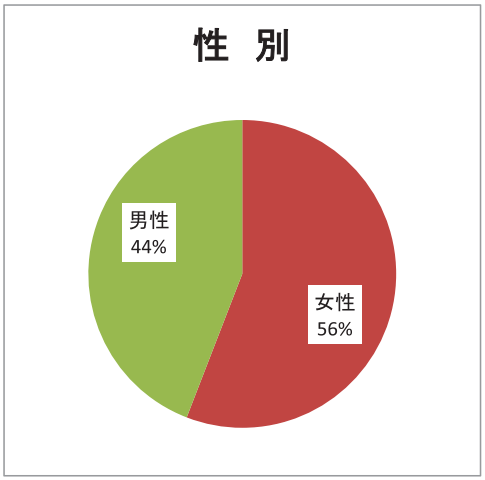
- 源氏物語の深掘りの講話に満たされています。
- 源氏の世界に癒され、色々な事に興味がわき、今では図書館に行き、関連のある本を手に取ることがとても楽しいです。
- 自分の老後の財産を増やしていることに、非常に感謝しています。
- 先生の話が、面白くて楽しい。
- 今後は不自由なく海外の方とコミュニケーションがとれるようになりたい。
- 教室の雰囲気がとても良く、先生の講義がとても解りやすくて、初心者の私がとても楽しく勉強できました。
- 二部合唱したいのですが、レッスン日が少ないので、受講回数を増やして欲しい。
- 歌う楽しさと歌うことによる健康を感じてます。今後も継続して受講したいです。
- 貴重な資料をたくさん見せていただき、質・量ともに大変いい勉強をさせていただきました。
- 書道の基本や線の味わいの心底に、隷書が必要であるという事がよくわかりました。
- 先生の人柄が大変良く、今まで学習したことのない分野を楽しく学ばせていただき感謝しています。
- スポーツ吹矢の奥の深さがよくわかり、楽しい雰囲気で毎回練習できています。
- 先生のお話がとても面白かったです。源氏物語の奥の深さを知ることができました。来期も期待しています。
- 健康のために大いに役立っています。先生の話で体のことも考えるようになりました。
- 刺激の多い実りある講座でした。新しい本にも出会え、おもしろかったです。
- 思いがけず、甲骨文字から学べて面白かったです。
- もう10年も続けていて生活の一部になり、年とるごとに重要な時間になっています。
- 講座内容がどんどん難しくなって、ついていくのが大変です。

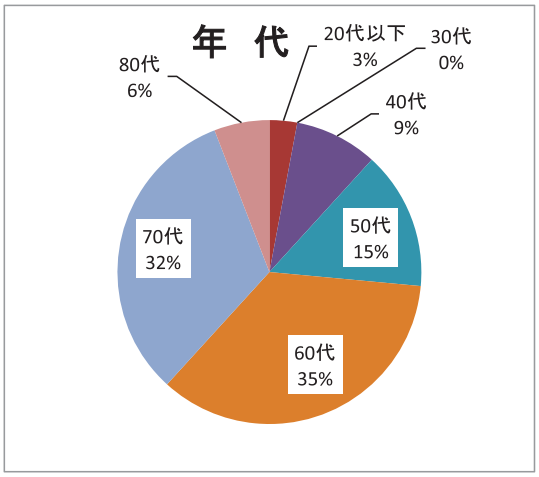
北九州市民カレッジ講座

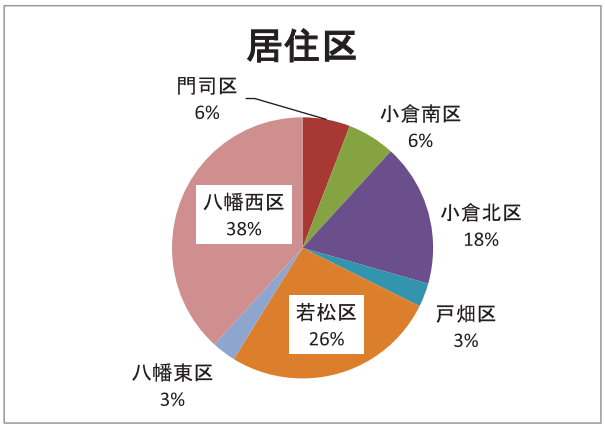
北九州市教育委員会と連携して行う事業で、市民の高度で専門的な学習ニーズに対応した学習機会を提供し、自己実現の促進、地域社会の活動向上及び生涯学習社会を担う人材の育成を図るために行う講座です。2019年度は、34名（男19名・女15名）の受講生数でした。

講　　座　　名	日時・回数・場所	受講生数	担　当　講　師
理系の話を聞いてみよう（前編）	5/27～8/5　月曜日 13:00～15:00　10回 自由ケ丘会館３階	15	元九州共立大学 教 授　　江口　弘文
理系の話を聞いてみよう（後編）	11/11～2020. 1/27　月曜日 13:00～15:00　10回 学思館　１階	14	
水泳愛好者のための水泳教室	10/14～12/23月曜日 14：00～16：00　10回 福原学園屋内公認プール	5	九州共立大学 講 師　　森　誠護

※受講生状況







※受講生アンケート

- 高校の微分積分で数学に苦手意識を持っていましたが、また学びなおすことができ、数学が解ると色々見えてきそうなことがあり、頭の切り替えができて楽しかったです。
- 内容的にはかなり難しかったように思います。高校時代に全く手も足も出なかった内容が、少しではあるがわかった気がしました。
- 水泳教室は、毎回参考になるアドバイスがあり、楽しい講座でした。
- 水泳教室は、カメラの準備までしていただき丁寧なご指導に感謝いたします。全ての回が有意義で勉強になりました。

北九州市立年長者研修大学校穴生学舎シニアサマーカレッジ

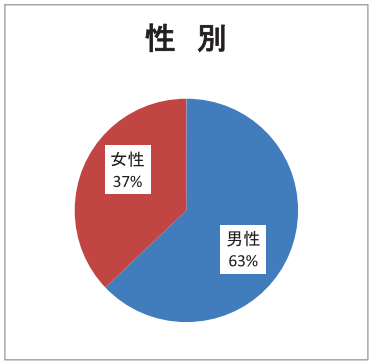
穴生学舎では、高齢者の生きがい対策の一環として、「生きがい・健康・ふれあい」、を基本理念に自立した高齢期の生き方を提唱しています。また高齢者の活力を地域に還元する仕組みづくりとして、ボランティア活動を通じて、高齢者の社会参加を促進する研修や事業等の推進をしています。本年も、増大かつ多様化し、ますます高度化する学習ニーズに応えるため、本大学のキャンパスを利用した「シニアサマーカレッジ」を開講しました。

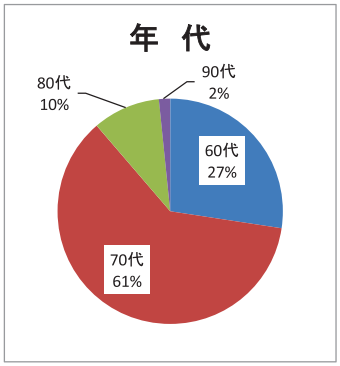
テーマ　～おもしろ社会学～人生100年時代！豊かさ、希望、未来への学び！

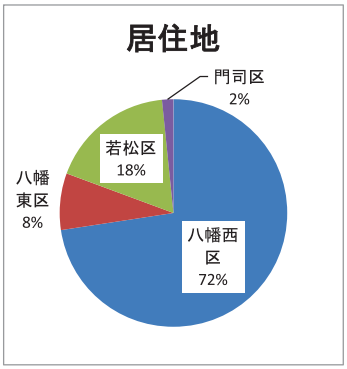
《期　　間》 令和元年7月19日(金)～9月27日(金)　　《回　　数》 10回
《場　　所》 九州共立大学内　自由ケ丘会館3階　　《受講者数》 62名

開講日	時　間	講　座　内　容	担　当　講　師
7/19(金)	10:00～10:20	開講式・オリエンテーション	北九州市年長者大学校 穴生学舎職員
	13:05～14:35	心と体のこりをとる、健康力の育成	九州共立大学 教授 照屋　博行
7/26(金)	9:00～19:00	校外研修　　山口市～古刹と名園探訪	自由ケ丘高等学校 教諭 三浦　明彦
8/2(金)	10：45～12:15	スポーツ社会学 日本人におけるスポーツの文化性及び精神性 ～競技力向上と世界への挑戦へのカギ！～	九州共立大学 教授 山田　明
	13:05～14:35	長崎街道宿場探訪記	自由ケ丘高等学校 教諭 三浦　明彦
8/9(金)	10：45～12:15	予祝で楽しく健康づくり	九州共立大学 准教授 内田　満
	13:05～14:35	知って安心シニア世代の法律講座	九州共立大学 准教授 森江　由美子
8/23(金)	10：45～12:15	ひとによりそう最適化技術	九州共立大学 教授 三原　徹司
	13:05～14:35	心も身体も活き活きレクリエーション	九州共立大学 助教 花田　道子
8/30(金)	10：45～12:15	遠藤周作と長崎　－『女の一生二部・サチ子の場合』を中心に－	九州共立大学 講師 古浦　修子
	13:05～14:35	『万葉集』を読む　～筑紫太宰の万葉歌から学ぶ～	九州共立大学 講師 鈴木　喬
9/6(金)	10：45～12:15	中国社会の昨今　-衣・食を中心に-	九州共立大学 教授 沙　秀程
	13:05～14:35	メタボ・認知症・ロコモ・フレイルから体を守りましょう	九州共立大学 講師 松崎　守利
9/13(金)	10：45～12:15	水がもたらす効果　-水泳・水中運動を生かした体力づくり-	九州共立大学 准教授 森　誠護
	13:05～14:35	災害環境を知る・考える	九州共立大学 教授 成富　勝
9/20(金)	10：45～12:15	なるほど！コミュニケーション　～交流分析で自己理解～	九州共立大学 教授 田代　利恵
	13:05～14:35	ロボット・ＡＩで何ができるか？	九州共立大学 講師 水井　雅彦
9/27(金)	10：45～12:15	令和の万葉集	九州共立大学 学長 奥田　俊博
	13:05～14:35	閉講式	北九州市年長者大学校 穴生学舎職員

※受講者状況







2019年度　地域連携推進センターの業務成果

月	日	曜日	地域連携推進センター運営委員会･地域連携協議会と協定・覚書の締結
4	24	水	第１回地域連携推進センター運営委員会
5	22	水	第２回地域連携推進センター運営委員会
6	26	水	第３回地域連携推進センター運営委員会
7	22	月	社会福祉法人北九州あゆみの会と協定締結 「学校法人福原学園九州共立大学と社会福祉法人北九州あゆみの会との包括連携に関する協定」
	24	水	第４回地域連携推進センター運営委員会
9	13	金	第１回地域連携協議会
	25	水	第5回地域連携推進センター運営委員会
10	9	水	北九州市消防団協力事業所 表示証交付式
	23	水	第６回地域連携推進センター運営委員会
11	27	水	第７回地域連携推進センター運営委員会
12	20	金	北九州市における子ども食堂の支援に向けた取組に関する協定締結
1	22	水	第８回地域連携推進センター運営委員会
2	14	金	第２回地域連携協議会
3	2	月	第９回地域連携推進センター運営委員会

北九州市消防団協力事業所 表示証交付式

北九州市における子ども食堂の支援に
向けた取組に関する協定締結

九州共立大学
KYUSHU KYORITSU UNIVERSITY

2019 年度　九州共立大学　地域連携推進センター 報告書
発行　令和 2 年 6 月

学校法人福原学園

九州共立大学　地域連携推進センター

〒807-8585　北九州市八幡西区自由ケ丘 1-8
TEL＆FAX　093-693-3255　　E-mail　renkei-2015@kyukyo-u.ac.jp